

成果指標				
成果指標	通所型介護予防事業参加者のうち、状態維持により介護申請をしなかった人の割合(平成25年度は活動指標・成果指標を見直した。)			
指標設定の考え方	通所型介護予防事業に参加し、状態を維持し介護申請をしなかった人は、事業の目的である状態悪化の予防につながっている。			
区分年度	24年度	25年度	26年度	目標26年度
目標	85%	85%	85%	0
実績	84.5%	80.4%	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	基本チェックリストアンケートの送付、回答の分析など対象者把握に多大な手間がかかるが、介護予防の観点から継続して実施していく必要がある。今後介護保険法の改正等により実施方法等についての見直しが必要となってくると思われる。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	高齢者が要介護とならないための諸事業を早期に実施するため、アンケートを実施して該当者を把握、事業参加意思の確認など多大な手間がかかるが、現行法制度上、欠かすことが出来ない事務である。今後、法改正が見込まれており、留意する必要がある。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮る。
意見、課題	評価委員会抽出事業

行政評価委員会の答申

外部評価 (行政評価委員会)	・アンケートの回収率が70%くらいで良いのかどうか。もっと回収率を上げる努力が必要ではないか。・アンケートの早期解析のためにも、ゆくゆくはシステムにお金をかけてマークシートにした方が良いかもしれない。・介護保険料は負担する側の人数が少なくなってくるので、早晩いびつな事態が発生すると思う。ただし特効薬的なものはないから、介護保険法の改正動向に応じて、与えられたことをやるしかないと思う。
-------------------	---

経営者会議の最終判断

事業の方向性	現状のまま継続する。
意見、課題	